

生徒同士で協働する活動をとおして一人一人の学習意欲を高めながらキャリア発達を促す取組

【学校名：千葉県立夷隅特別支援学校】

～取組のポイント～

生徒同士がペアになって学習活動に取り組み、教え合いや協力を行いながら活動をやり遂げる協働を大切にしている。協働をとおして、個々のスキルアップを図りながら、生徒同士の関わりや相互理解といった内面の育ちを促すなど、キャリア発達支援につなげている。

1. 実践の概要

(1) 対象生徒

高等部2年 生徒 6名

(2) 教科・領域

職業科

(3) 目標

生徒同士でペアを組み、協働する活動や振り返りをもとに、よりよく活動に取り組んでいる自分を育むことができる。

(4) 学習計画

- ・教師の説明を聞きながら、個人で活動に取り組む。・・・3時間
- ・ペアになって、何をどのようにやるか相談しながら、活動に取り組む。・・・5時間
- ・一人で時間いっぱい活動に取り組む。・・・3時間

2. 実践の内容

6名の生徒は、過去に3回、産業現場等における実習（校内実習を含む）を体験してきた。各事業所において、集中力や持続力、適性などを養うことを大きな目的として実施してきたが、担当者から指導を受け、行動に移すことが多かった。このように生徒達は、教師や担当者の指導や支援を受けることが多く、受け身になっているのが現状である。

そこで、学級の「職業」の時間を使い、生徒同士の主体性を引き出せる授業を検討した。本学習では、生徒同士で協働することの大切さ、友達の頑張りや苦手に気付き、ともに高め合うといった相乗効果を狙いとする。生徒同士で教えあったり、称賛しあったりすることで、お互いを認め合い、個々のキャリア発達を願いたい。

活動は、どの子も分かりやすく、簡単な作業である「計量」や「アルミ缶つぶし」、「割り箸の袋詰め」、そして、誰もが一人でできる活動ではないが、興味をもち、得意とする生徒もいる「パソコン入力」に取り組む。どの活動についても、最初は教師から説明を受け、個々に取り組んだあと、生徒同士で見合っ、より正確に行うための方法や、効率的な手順をアドバイスし合う。

学習は、それぞれの4つの活動について、生徒同士がペアになって進めていく。学習を続けることで、生徒同士の関わりから活動の流れや作業工程を理解し、自らが時間いっぱい活動することができるようになってほしいと願った。



一緒に活動するペアを伝える。



友だちと一緒に協働することで相手を意識し、相乗効果がうまれた。



3. 工夫点

ペアでの取り組みを大切に、生徒同士が教え合い、協力し合いながら活動に取り組むことができるような場面設定を中心に授業を計画した。最初に教師が支援してベースを作り、活動に慣れたところでペアの生徒に教え方や伝え方を引き継ぎ、交代することで、生徒同士が指さしで教えたり、言葉をかけたりしながら活動に取り組むことができた。学習を進めるに当たっては、4つの活動をそれぞれ2セットずつ用意したことで、生徒の待ち時間もなく、各活動にスムーズに移行して取り組むことができた。

4. 実践の評価（成果と課題）

（1）成果

工程が分かりやすい作業内容であったため、活動への見通しがもちやすく、どの生徒も自分から積極的に活動する姿が見られた。教師の指示を受けて活動する機会の多い生徒達にとっても、生徒同士がペアになることで、お互いで活動している様子を見たり、活動を分担し協力し合いながら進めたりすることで、自分の担当する活動に対して意欲的に取り組む姿が見られた。出来栄やスピード、その他の事を生徒同士で評価し合うことで、より一層意欲的に学習する姿が見られた。ペアという他者を意識する機会を設けたことで、活動中に友達の様子を見て励ましたり、賞賛したりする姿が多く見られた。教える生徒、教わる生徒、共に満足感を味わえる学習となった。学習の終わりの感想発表では、自分が頑張ったことだけでなく、ペアの友達に向けての感想発表も行うようにした。「やさしかった」「丁寧に教えてくれた」など、友達から称賛されるとうれしそうに喜ぶ姿が見られたり、友達はこんなことができるんだという他者理解につながったりと、互いの良さを認め合う良い機会となった。

パソコン入力練習では、難しいながらも全員のモチベーションが高まり、積極的に何度もチャレンジする姿が見られた。生徒の多くがパソコンに興味をもっているため、パソコン入力練習については、どの生徒も集中して活動に取り組むことができていた。

（2）課題・展望

多くの学習においては、教師主導の指導や支援となっている。もちろん、基礎基本を的確に生徒に伝えることは教師の役割でもあり不可欠といえる。しかし、同時に生徒同士の関わりを大切にすることの必要性も改めて感じる事ができた。

職業自立、社会自立に向けては、個々のスキルアップを進めることはもちろんであるが、「誰のために」「何のために」という、働くということについての本質的な理解も必要となる。その本質を理解することで、仕事に対する充実感や意欲が生まれ、仕事の定着にも通じるものとする。自分だけでなく、相手のことを思う気持ちを育てることは、キャリア発達の視点からも、大切で不可欠なことと考える。特別支援学校という小さな集団ではあるが、お互いを認め合うこと、学級の一員として自分は必要な存在であるということを知り合うことは、他の教科でも具体化できることでもある。

協働する活動をもとに、友だちとの関わり、相互理解といった内面の育ちを大切に、生徒の個に応じたねらいや手立てを明確にした主体的な学びを展開し、キャリア発達を支援していきたい。